2025年から2026年にかけてベトナムでは大規模な地方行政区画の再編(省・市の統廃合)が進行しており、直轄市の状況は大きく変化している。

1. 現在の中央直轄市(全9都市)

2026年9月現在、従来の「5大直轄市」に新たな4都市が加わり、計9カ所体制となっています。

都市名	地域	特徴・最近の動向
ハノイ市	北部	首都。政治・文化の中心。マスタープラン「100年ビジョン」を推進中。
ホーチミン市	南部	国内最大の経済都市。商業・金融・ECの中心地。
ハイフォン市	北部	北部最大の港湾都市で、一大工業地帯。
ダナン市	中部	観光・IT産業が盛んな、中部地域の中核都市。
カントー市	南部	メコンデルタ地域の中核。南部初の「ハイテクパーク」設立が決定。
フエ市	中部	2025年の地方再編（旧トゥアティエン・フエ省）を機に直轄市へ昇格。
ドンナイ市	南部	2026年4月に昇格。ロンタイン国際空港の開発が進む巨大な製造業拠点。
クアンニン市	北部	2026年9月1日に昇格。中国国境に接するインフラ・観光の要衝。
バクニン市	北部	2026年9月20日に昇格。電子機器をはじめとするハイテク製造業が集積。

2. 2025～2026年の大改革(34省・市体制への移行)

・ベトナム政府は、行政運営の効率化や経済成長の加速を目的として、それまでの「63省・市」から「34省・市(6直轄市＋28省 *再編当初の枠組み*)」への大幅な統廃合を実施しました。

・行政の2級制化: これまでの「省・直轄市(第1級) ➔ 県・区(第2級) ➔ 社・坊(第3級)」という仕組みから、第2級(県レベル)を廃止・簡素化する方針が進んでいます。